

海岸寺

海岸寺は瀬戸内海に面する町、多度津の屏風浦地区にあります。その広大な敷地は、本堂と僧坊がある海岸沿いのエリアと、奥の院や大師堂などがある内陸のエリアに分けられます。この内陸のエリアを公道と JR 予讃線が通っています。お寺へは、入り口にある仁王門（守護王の門）をくぐって入ります。通常、このような門の両側には仏教の神々を具現した一对の像があるのですが、海岸寺では仁王像の代わりに相撲力士たちの像が立っています。伝説によれば、このお寺は、真言宗の開祖および四国八十八ヵ所霊場の創始者である仏僧の空海（774 年～835 年）が、中国での勉強を終え帰国してまもなく、807 年に建立したとされています。空海が海岸寺にこの場所を選んだのは、空海が産まれた頃、母の玉依御前がここに住んでいたからではないかと考えられています。玉依御前が住んでいたと思われる場所には仏母院が現在建っていますが、お寺自体は玉依御前が出産のために設けた小屋跡に建立されたと言われています。寺の敷地内の数か所からは、島々が点在する海が北に見えます。その展望スポットの一つは本堂裏の砂浜です。もう一つは、近くの坂の上にある奥の院です。この坂は約 15 分で上ることができます。